

安息日学校入門

特
5

020220-000-2

特53-574

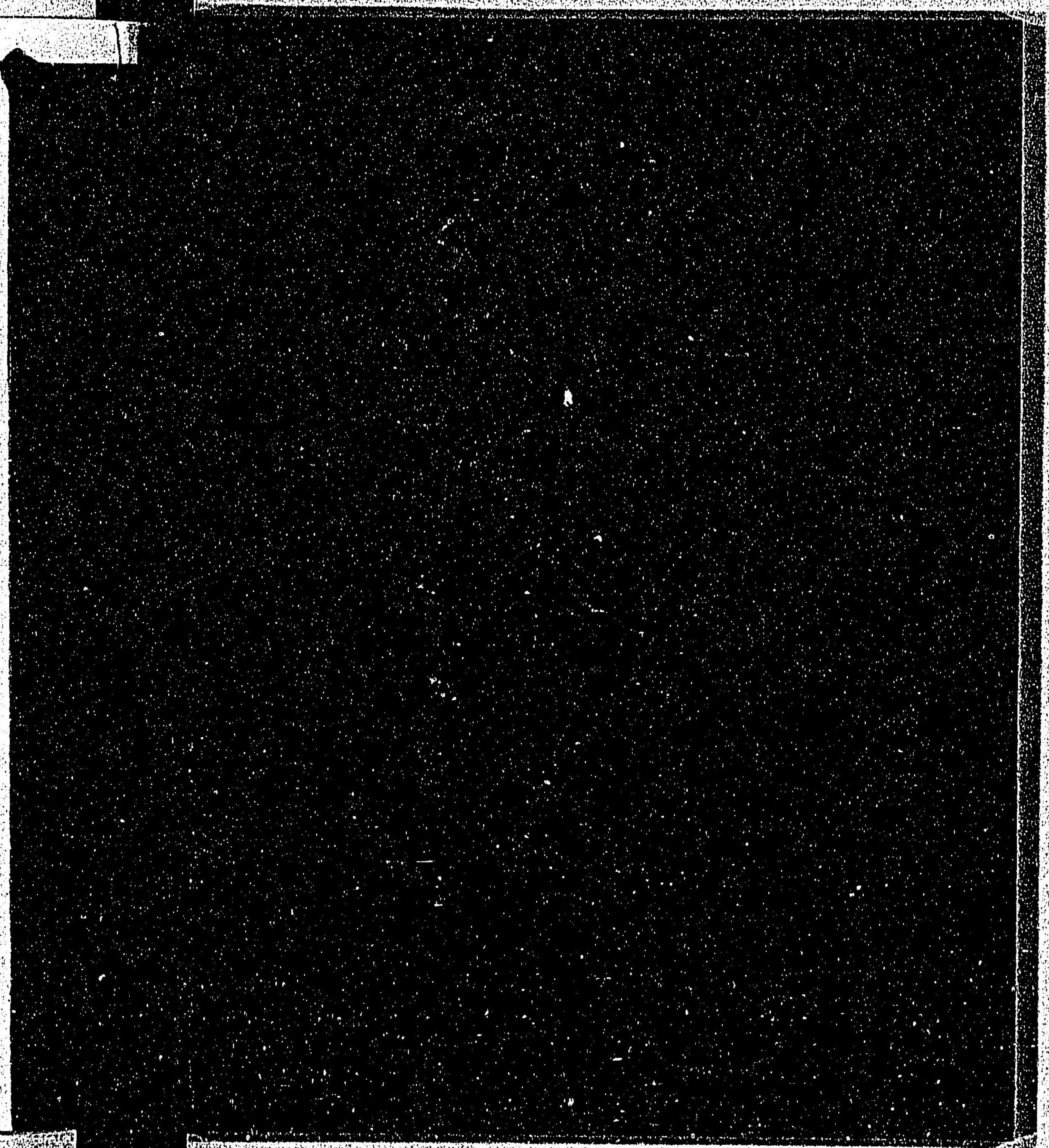
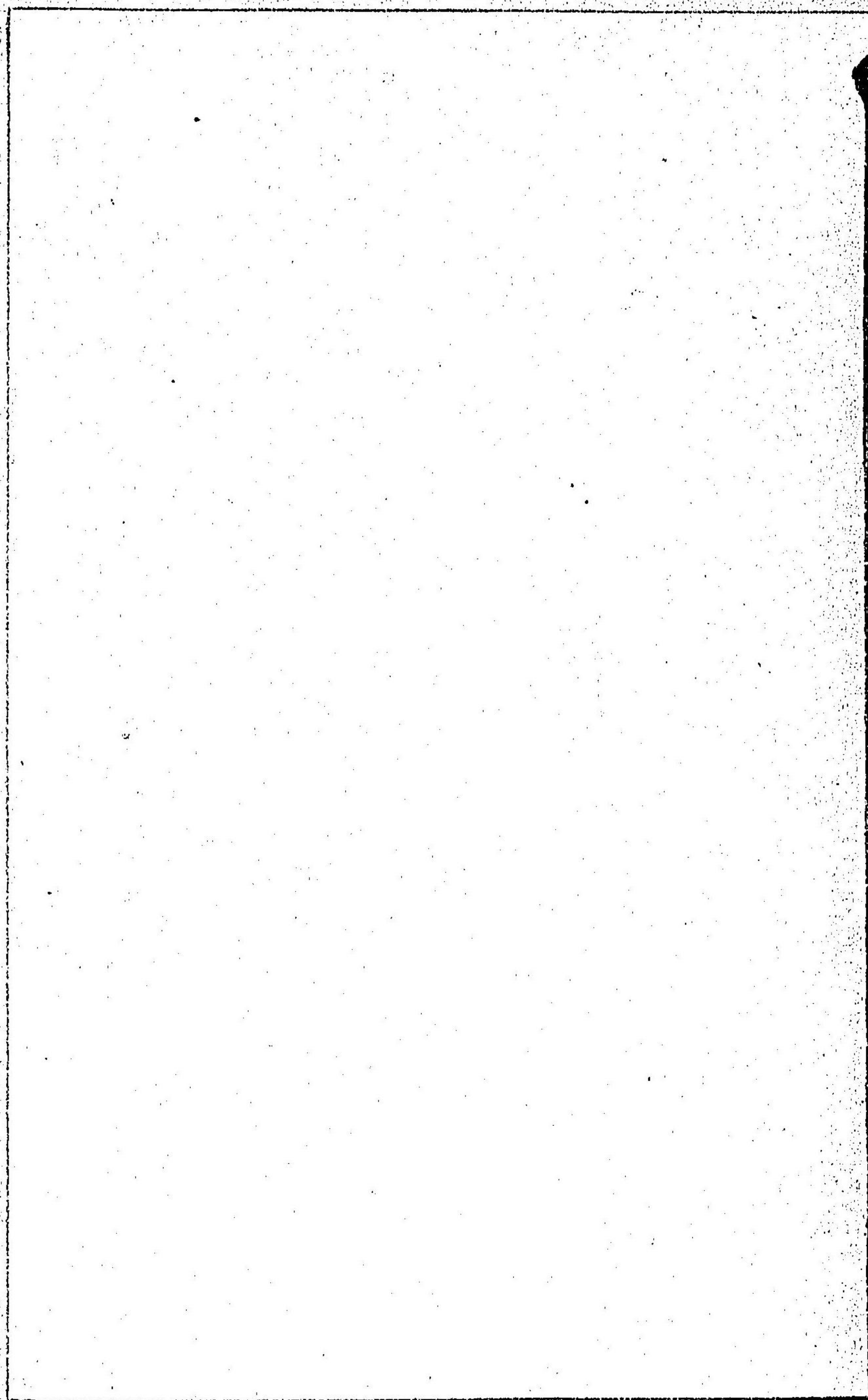
安息日学校入門

加藤 覚 / 撰

M2.1

ABI-0022





V-94

明治二十一年十月

安息日學校入門全

東京上梓



for the Sabbath School of the Shinagawa Kyokwai, was written by the pastor,—Rev. S. K.—who earnestly desires to indelibly impress upon young minds a knowledge of Christ, His saving power, and the glorious inheritance awaiting children of the Heavenly King.

“Christ also hath once suffered for sins, the just for the unjust, that he might bring us to God.” 1 Pet. 3. 18. May the teaching of the Holy Scriptures encourage and enlighten the little ones!

ETTA W. CASE.



緒言 井に授業の方法概略

- 一 この書は最初吾教會の安息日學校生徒に授くるが爲に撰みたるものにて中頃友人の懇慫に由り一般の便宜に備へんとて之を公けにせし次第なり
- 二 この入門の目的は幼稚なる生徒をしてキリストの救世主なることを知らしめんが爲なれば教員は此旨を體し生徒をして可及的如何なる場合にもキリストを基礎となし奉教心を興さしむる様に注意をべし
- 三 たとへば教員は第一課を教ゆるより先づ黑板に人字及び罪字を記るし一應生徒に其意義を聞かせ而して人の罪、罪人のもとを説き更は例を引き之を問答し凡そ人の幼時より罪ある者にして救世主イエスキリストを信ぜざる可らざる理由あるものなるを教べし
- 四 たとへば第十九課を授くるに方り我主よ我神よとあるは我字に大なる力ありて荷も約翰傳第二十章二十四節乃至二十九節の歴史を熟知せるものにあらざればこの二句の言を以て小兒の心に會得せざると能はざるべし設し

それ使徒トマスの例を引き卑近の説明を加へ之を教ゆるに於ては教員の手際次第に生徒をして喜んでその説明を聞かしめ又敢てキリストは我主なり我神なりと呼びしむるに至るとならん

五 たとへば第十一課第十六課第二十二課の祈禱を教ゆるに方つては何故に此の如き言を以て祈らざるべからざるやを一々一言半句も漏さず之を脱き明かし總體を憶へたる以上にて之を實踐せしむべし

六 この入門なる一小冊子はその意匠は深く其利害を論究し之を實驗し又之を反復調査したる以上にて凡そ十二ヶ月間の熟考を經漸く印刷し付せしものなれば此上とも具眼者の充分なる意見を聞かんとを庶幾して止まざるものなり

七 安息日學校教員には左の心得あるを要す

- 甲 忍耐 不注意を動搖とは少年の性なり 強て之を壓制するなけれ
- 乙 愛憐 たゞ心のみならずその實行にも之を顯はせし 蓋し小年は思

慮淺薄にして外部に顯はれざれば之を認め難し

丙 寛嚴 嚴格に過ぐべからず又狎々しくす可らず

丁 鼓舞 獎勵を前にし譴責を後にせし

戊 善例 教員自ら先んじて獻金をなし慈善をなせし 然らば生徒も亦之に倣ふべし

己 訪問 便宜生徒の家を訪ひ或は自己の宅に招くべし 生徒は之を記憶

して永く忘れず師弟の間を好くし教化の助となるなり

八 卿等、神に對するの責任の一部として幼少の生徒をキリストに導かるれば則ち其名の天の生命簿に記さるゝとは吾人の疑はざる所なり請ふ聖靈の冥助、卿等の上にあらんとを 亞 孟

東京品川 明治二十一年陰曆秋月の夜

撰 者 識

第一課

人。

罪。

人の罪。

罪人。

私には罪がありません。

第二課

神^{かみ}。キリスト。子^こ。

神の子。

キリストは神の子である。

神の子も、人と、おりました。

第三課

生^い命^{のち}。死^し。しぬる

人の生命。

人は死ぬるものである。

罪^{つみ}のら、死^しが、來^きました。

第四課

天國。救。

罪人は天國に入られませぬ。
救はされたものが天國に入ります。

第五課

悔改。信仰。

罪を悔改めねばなりません。
私はキリストを信仰いたします。
およじさんが悔改めました。

第六課

神には、お形すがたが、ござりませぬ。

人は、神を見ること、が、できませんか。

神は、私の心までも、御覽ごらんなされますヨ。

第七課

十字架じゆうじかの苦難くるしみ。

十字架の苦難。

キリストは、私に代かりて十字架に、おかゝり
りでした。

私も十字架を、負おませう。

第八課

贖あひなひ 幸福さいほう

人の罪の贖

贖のきたものは、幸福であります。

キリストは、私の贖主あがなひしでございます。

第九課

祈禱いのり 讚美さんび

お母ははさんは、祈禱ます。

神を、讚美とませう。

讚美のあとで、祈禱がある

私は、祈禱のときよ、静かに、いたします。

第十課

天てんの父ちち。

感謝かんしゃ。たれい

神に、いろいろの感謝を、いたします。

神は、天の父で、おさいます。

私の父とと上かみは、よいものを、くたさいます。

天の父は、キリストを、下くだされました。

第十一課

天の父よ。私の罪を、御免ごめんください。

キリストを、下くださつて、ありがたう、ぞん

とまき。私に、死なぬ生命を、下され。

アーメン。

第十二課

たのじきくには てんまあり。
 じんとやはさかえて かゞやく。
 イエスをあがめていとよくうたへ。
 こゑをたかめて たえせせ。

第十三課

聖書せいしよ

説教せつけう

家内うちで、聖書を、讀よみますか。
 會堂くわいどうで、説教を、聞きましたか。
 聖書は、神のお言ことばであります。
 私は、聖書と、説教が、好すきである。

第十四課

平康やすき。歡樂よろこび。聖靈せいれい。

罪人には、平康がありません。

聖靈は、神であります。

私は、聖靈を、拜おがみます。

平康と、歡樂とは、聖靈の賜たまひである。

第十五課

義ぎ。神の義。
人の義。
眞まこと。

信仰に由よて、義とせらる。

神を眞とすべし。

義人なし、一人もあるなし。

第十六課

天に、おいででの、キリストよ。私が神の
ことを聞く時に、お助けください。こ
んばん、眠ねむるうち、御保護おんまもりを願ねがひます。
死しんたら、天國に入いきて、くだされ。

アーメン。

第十七課

愛あい。神の愛。
人の愛。

永生かぎりなきいのち

神は、世の人を、愛し給へり。

キリストを、信しんぶる者は、永生を受うく。

爾なんぢは、神を愛し、又また人を愛すべし。

第十八課

榮さか身み靈魂たましひ

神のものなる爾曹なんぢら身に於おても、靈魂に於おても、神の榮さかを顯あらはすべし。

第十九課

我主しゆよ、我神よ。

人た何をもちて、其生命なに、易かへんや。

神を信まト、亦またキリストを信まぎべし。

第二十課

律法。誠。偶像。

一。爾、わが前に、我の外、神ありと、すべからざ。

二。爾、自己の爲に、偶像を、造るなかれ。

第二十一課

三。あなたは、神の御名と、神の御事を、やたらと言つては、なりませぬ。

四。六日の間は、はたらきて、主の日は、仕事と、遊ぶ事を、やめて、神に、つかへねば、ならぬ。

第二十二課

オー、聖靈の神よ。私は神よりも、世の
 中なかのものを愛しました。なにとぞ、キ
 リストの御名みなに託たくて、私の罪を御赦おゆるし
 下くだされ。

アーメン。

第二十三課

五。爾ちいさいの父母を敬うやまへ。

衆人すべてのひとを敬うやひ、兄弟きょうだいを愛あひ、神を畏おそむ、王を
 尊たよぶべし。

第二十四課

キリストは我儕われらのなほ罪人たる時とき我
 儕われらの爲ために死たまへり。神は之により
 て其愛を彰あはと給たまふ。

第二十五課

行おこなひ。 言ことば。 心こころ。

- 六。 殺ころすな。
- 七。 けがるゝな。
- 八。 盜ぬすむな。
- 九。 虚妄うそい云ふな。
- 十。 貪あつるな。

第二十六課

審判。父の國。

神は、義を以て萬民を審判たまふ。
 われら必^{かなら}ず、皆^{みな}キリストの臺前^{たいぜん}に出^{いで}ん。
 義人は、その父の國に於^おて、日の如^{ごと}く輝^{かがや}かん。

版權登録

廣告

安息日學校讀本

幼童の部、少年の部、中年の部、女子の部、男子の部 全五冊

加藤覺君撰

教法ルートル傳

近來の書籍にハ平易を貴ぶの餘り俗に流れその傍訓の如きも大に讀者の妨害となると鮮からず故に撰者ハこの意を注ぎ學者書生等凡そ大新聞の論文を讀み得る人の爲に記述せられたれば凡俗の冊子と其の趣を異にし稍高尚なるものなり

發兌書肆 警醒社

明治二十一年十月十二日印刷
 同二十一年十月十七日出版

版權所有

撰者兼發行者 加藤覺

印刷者 仁

東京芝區高輪南町三十番地
 科衛
 京橋區築地貳丁目拾七番地

安息日學校讀本并にルートル傳とも本社規則外にハ賣捌人にも對引致さず候

發賣所 警醒社

東京新橋日吉町

V-94

